

民友クラブ政務調査個人別報告書

1. 平成 29 年 5 月 18 日 (木) 埼玉県入間市での行政調査



【調査項目】『小中一貫教育』について

【事業の目的】入間市では、平成 18 年当時に中学生の校内暴力・不登校などの問題が多く、小学生では、授業中自席について授業が受けられない生徒(低学年)が、在籍していたなどの問題が山積していた。

そうした、課題解決のために、就学前段階から義務教育段階への円滑な接続が重要であると認識し、平成 21 年度から入間市は、育つすべての子どもたちの豊かな育ちと学びを実現し、一人一人の自立を総合的に支援する。

【事業の経緯】①H21 年度：子ども未来教室事業開始・・・学校間の円滑な持続を支援：幼保小・小中・中高連携の推進を図ってきた。

②H23 年度：埼玉県教育委員会より研究委嘱・・・東町小・中学校が、県教育委員会より『小中一貫教育推進モデル事業』の委嘱を受けた。

③H25 年度：文部科学省の調査研究の委託・・・多様な教育研究の委託を受ける。 他

【調査して参考すべき点】平瀬尾 21 年度より推進している『子ども未来室事業の基本理念』を踏まえ、小中一貫校を平成 26 年度から全中学校区で実施され、様々な取り組みにより、学校力を高め、豊かな人間性を育むことに繋がり、義務教育 9 年間の成果として、教員の個性・能力などを伸ばし、生徒の学力向上やいじめなどが減少したデータも出てよい結果に繋がったのは、教育理念の枠を超えた取り組みがあるからと思われた。

我が、会派(民友クラブ)としても、理事者に対し、より良い教育体制について、改めて提案すべきだと思い知らされました。また、知立市も見習うべきだ！・・・

2. 平成 29 年 5 月 19 日 (金) 東京都西東京市での行政調査



【調査項目】『下野谷遺跡公園』について

【下野谷遺跡の経緯】下野谷遺跡は、首都圏の市街地に良好な状態で残る縄文時代中期の大集落跡で、市民の関心が、高まり平成 19 年に下野谷遺跡公園(3,200 m²)を開設した。

その後、平成 27 年に西集落の一部が国史跡に指定された。

【下野谷遺跡の概要】遺跡は、西東京市伏見二丁目、3 丁目 6 丁目地内に所在する縄文時代中期(今から 4・5 千年前)の集落跡であり、土坑(お墓と考えられる穴)郡のある広場を囲むように、住居跡や堀立柱建物(倉庫などと考えられる

建物)郡などが並ぶ形で構成されており、縄文時代中期の典型的な『環状集落』という構造をしている。このような形態や、出土している土器からわかる集落の継続機関は千年間と非常に長く、住居跡や土坑が密集していることからすると、石神井川流域の拠点となる集落と考えられています。 他

【調査して参考になった点】特に参考になった点は、歴史的な文化財を市民が共有し、大切な郷土の財産を自らのものとして、市全体で育てて行く姿勢に感銘を憶えた。

また、知立も市内に『荒新切遺跡』があるので、当市の遺跡のあり方と後世にしっかりと伝える教材として、市と議会とで議論し、取り組むべきだ！

